

本年度の重点目標

・みんなが、心豊かで、居心地のよい学校づくり ・信頼される安全・安心な学校づくり
 ・教職員の指導力、専門性の向上 ・地域における特別支援教育のセンター的機能の推進

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	職員相互の信頼と協力に基づいて、なごやかな校風の樹立に努めている。	B	B	A
	家庭・施設・病院等との密接な連携を図り、地域に開かれた学校作りに努めている。	B	B	A
2 教育課程・学習指導	児童生徒の実態に応じた、適切な教育のあり方を究明している。	B	B	A
	社会的自立や生活的自立に向けて、職業教育や自立活動を推進している。	B	B	B
3 生徒指導	児童生徒の実態に合わせた、きめ細かな生活指導と通学指導に努めている。	B	B	A
	児童生徒会の充実を図り、自主的自発的な活動意欲を育てている。	B	B	A
	児童生徒の学校生活の把握に努め、いじめを見逃さず適切な指導を行っている。	B	B	A
4 進路指導	児童生徒や保護者に必要な情報を提供し、保護者や関係機関等との連携を密にしている。	B	B	B
	児童生徒一人ひとりの自己実現に向けた進路指導を進めている。	B	B	B
5 保健・安全指導	心身の健全な発達を図るため、保健・給食・安全指導を計画的に行っている。	B	B	A
	児童生徒の事故・けが・病気等への対応等適切に行っている。	A	A	A
6 人権教育	人権の確立をめざし、お互いが人として尊重し合う人間形成に努めている。	B	B	A
	幅広い人権学習を通して、子どもたちの人権意識を高めるように努力している。	B	B	A
7 環境教育	郷土である滋賀の環境や地域の文化に触れる学習活動に取り組んでいる。	C	C	B
	節電やゴミの分別、牛乳パックのリサイクルなどを通して、児童生徒に資源を有効活用する大切さを指導している。	B	B	A
8 交流及び共同学習	地域や学校の実態に即しながら、社会性や好ましい人間関係を育てている。	B	B	A
	交流校や地域の人々との共同活動を推進し、豊かな人間関係を築いている。	B	B	B
9 教職員の現職教育	授業研究やケース研究などを積極的に行い、指導力向上に努めている。	B	B	B
	一人ひとりの児童生徒のニーズに応じた合理的配慮が適切に行えるよう専門性の向上に努めている。	B	B	B
10 センター的機能の発揮	地域および関係機関との連携を深め、特別支援教育のセンター的機能の充実に努めている。	B	B	B
	児童生徒個々のケースについて、担当を中心に組織的な教育相談活動を行っている。	B	B	B
11 その他学校の取組	学校とPTAとの連携による情報共有や活動に努めている。	B	B	B
	児童生徒がよりよい環境で学習や生活が行えるよう、学校づくりに努めている。	B	B	B

(注) ・評価については、ABCDの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。

・自己評価: ABCDの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にABCDの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。